

公開シンポジウム「香り再現にもとづいたデジタル香り技術の構築」に 文京学院大学 人間学部 小林剛史教授が登壇 ～嗅覚VRゲームによる高齢者の認知機能改善効果について研究成果を発表～

文京学院大学(学長:福井 勉)は、人間学部の小林剛史教授が、2026年3月16日(月)に開催される、JST 未来社会創造事業「次世代情報社会の実現」領域における研究課題「香り再現にもとづいたデジタル香り技術の構築」の本格研究初年度公開キックオフシンポジウムに登壇することをお知らせします。

本研究課題は、嗅覚の計測・データ化・再現を可能にする「デジタル香り技術」の基盤構築を目指すもので、2022年10月に開始、2025年4月より本格研究段階へと移行しました。小林教授はこれまで、嗅覚VRゲームを用いた高齢者の認知機能改善研究において、香りのデジタル化と心理学的評価を接続する研究を推進してきました。

小林教授の発表内容について

高齢化社会において、加齢に伴い衰える認知・記憶機能を維持・向上させることは、認知症予防やウェルビーイングの観点から極めて重要な課題です。

小林教授は、「嗅覚VRゲームによる認知機能改善効果:選択的向上と視覚手がかり量に対する頑健性」と題し、嗅覚刺激と視覚情報を組み合わせた没入型体験が、どのように認知機能へ影響を与えるのかについて、心理学的評価の観点から報告します。本発表は、デジタル香り技術の社会実装に向け、医療・福祉分野への応用可能性を示す重要な位置づけとなります。

なお、本研究は、東京科学大学、法政大学、University of the Arts Londonとの学際的共同研究に参画し、嗅覚ディスプレイを活用したVRゲームが高齢者の視空間認知機能を有意に向上させることを実証しました。そして、従来の直接香りを嗅ぐ手法に比べ、高い没入感を伴うリハビリテーションを可能にしました。本研究成果は、国際学術誌『Scientific Reports』に掲載されるなど、国内外から注目を集めています。

シンポジウム開催概要

- 日 時:2026年3月16日(月) 14時30分～17時30分
- 会 場:東京科学大学 すずかけ台キャンパス(ハイブリッド開催:来場およびZoom配信)
- U R L:<http://nt.first.iir.isct.ac.jp/html/program-3.htm>(イベントHP)
- 申 込 先:<https://x.gd/bHpGC>(参加申込フォーム)
- 申込期日:2026年3月9日(月)まで
※3月15日(日)までに、登録メールアドレスにZoom URLが送付されます。

【登壇者】人間学部 心理学科 小林剛史教授 プロフィール



【専門分野】

生理心理学、行動薬理学、認知心理学、神経科学

【研究課題】

生理心理学、知覚心理学、認知心理学、感情心理学の話題全般、においに対する慣れ、においと先入観、においと自伝的記憶、スメハラなど

【所属学会・団体】(一部抜粋)

日本認知心理学会、日本生理心理学会、日本感情心理学会